

2012年度11月 3メートル5メートル

北清 康二

3メートル5メートル,これは中国で何事につけ,対面する対象と開けておきたい距離です。前者は,多少近視眼が,後者は目の良い人が。

当地の寒気の訪れは突然です。太原から50kmほど西南の浄土宗の発祥の地と言われる玄中寺を日帰りで訪れ,太原のバス駅に戻ったのは午後の7時を回った時刻でした。中型のバスを降りた瞬間,ほっぺたをいきなりひっぱたかれたかのように冷たい寒気が吹き付けてきました。長袖の下着に,長袖のシャツ,そして裏地付きの上着を着ていても,冷気がしみ通ってきます。周りの皆も縮み上がっています。中型バスに乗る前は,歩いた直後でもあり,多少暑くるしさを感じていた位でしたが。

寒暖の差が大きく,とても寒い太原ですが,部屋の中は比較的快適です。それは,「暖気」と呼ばれる,地域暖房設備が部屋に設置されているからです。部屋の「暖気」は,壁に埋め込まれているので,全体が露出している共同トイレの設備の写真を添付します。



中に温水を通していているのでしょうか。表面は手で触って多少暖かいかないという程度の温度です。外気温に合わせて温水の流量を調整しているのでしょうか,部屋の温度は23℃程度に保たれます。

この集中暖房の温水は何処で沸かしているのでしょうか。大学の構内に設備は見当たりません。聞いてみたところ,以前は各单位ごとに温水を釜で炊いていたそうですが,環境への対応から今は市内の何箇所かに集中させ,そこから給水しているとのこと。そこで,毎日暖かいシャワーが使えます。集中させた釜から市内にどのように温水を供給するのか?近くの商店街の温水の供給管理設工事で垣間見ることができました。商店の通り片側を最大で2mほど掘り下げ,内径50cm程の保温材を巻きつけた鋼管を設置していました。この幹線から分岐させ,末端では内径20mmほどに絞っているようです。大掛かりな工事ですが,工事中も道路封鎖はしません。道の片側に積み上げられた土の山の上を危なげな足取りで買い物客が行き来します。投げ込まれたゴミも埋めてしまえば見えなくなります。



寒気と共に訪れるのが空気の乾燥です。並みの乾燥具合ではありません。11月の初旬、突然両足にかゆみを覚えました。急いでズボンを脱ぐと、皮膚がカサカサに乾いています。なでるとぱらぱらと乾ききった表皮が落ちます。内股は赤くミミズ腫れを起こしていました。当初は湿潤剤を2時間おきぐらいに塗っていました。2週間をすぎ、今はなんとか体が順応したようです。洗濯物は脱水して2時間も部屋の中に吊るして置くと乾いてしまいます。

共同トイレの二つある洗面台の一つが、水漏れを起こすようになりました。パッキンが摩耗したのでしょう。パッキンを交換するのかと思っていたら、蛇口ごと交換されました。1週間後、誰かが急いで締め過ぎたのか、レバーがちぎれていました。



<交換前の蛇口の形>

<交換後の蛇口。1週間でレバーがちぎれる。>

再度直した？水栓を締めようとした指を急いで離しました。危うく指を切るところでした。ちぎれたレバーの穴を下にして取り付けであるのです。怒ってはいけません。



<直した？穴を下にして取り付けである。>

政治、風土、文化、風習が違います。思い込みで急いで事を起こすことは危険です。まずは距離を置いて良く観察し、それで済ませられれば、それ以上近づかない。近づかなければならない場合は、十分に考えてから注意深くする。これが、中国で過ごす最適な方法だと思っようになってきました。